

---

# MOON-3 『WOLF MEET VAMPIRE』 < 1 8 >

みづき海斗

---

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

## 注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

### 【小説タイトル】

MOON - 3 『WOLF MEET VAMPIRE』 < 18 >

### 【Nコード】

N4085M

### 【作者名】

みづき海斗

### 【あらすじ】

秀は意識を失う寸前に和人の名を呼ぶ。

そして - - -

ヴァンパイア

現代版吸血鬼ファンタジー『MOON』シリーズ第3段、**和人と秀の出会いを描いた『WOLF MEET VAMPIRE』第18話**です。

『WOLF MEET VAMPIRE』＜18＞（前書き）

そろそろ終わりですねー（長い。。。数えたら原稿用紙105枚だった（ー¥））。

秀の体がゆつくりと地上に倒れた時。

永遠に意識が途絶える、一歩手前の瞬間――

”永遠の眠り”についたのは、カレンの方だった。

「・・・・・・・・え・・・・・・・・？」

「な・・・・・・・・・・に・・・・・・・・？」

2人は期せずして同時に、疑問符を発していた。

カレンがゆつくりと振り返る――

その白い首筋に鋭く輝く、2本の牙を突き立てられたままの姿勢で。

「お・・・・・・・・・・前は――！」

問いかけられた青年は、ゆつくりと牙を引き抜き、その形の良い唇に

紅の血を宿しながら妖艶に微笑んだ。

死の間際の彼女でさえ、その姿に思わず胸の鼓動を感じてしまう様な――最後の一筋の青白い月光を背後に宿し、碧がかった黒髪を夜風に靡かせながら。

碧色の深い瞳の色は、見る者全ての心を魅きつけずにいられない。たとえ、それが女であろうと男であろうと――『闇』であろうと『光』であろうと。

彼女が、

「帝王・・・・・・・・？」

その『主』の名を呟いた時。

彼の白い手が、背後から彼女の左胸を貫いた。

苦痛とも至福ともとれる複雑な表情と笑みを浮かべて、カレンが目を開じる。

同時に――新しい”生命の活力”をこの街に与える役目を担った太陽が、M Y C I T Y のビルの谷間からゆつくりと現れた。

さっ………

春風に吹かれる訳でもなく。

カレンと仲間たちの体は、一瞬間の間に路上へと散った――象牙色の『灰』となつて。

「………帝王………」

自分の横を彼女の無形の淋しい”屍”が通り過ぎていくのを感じながら、かすれる声で秀は彼の名を呼んだ。

「何故――あんたがここに？あんたは………『灰』にはならないのか？」

帝王――和人は微笑した。

「俺は『灰』にはならない――”なれない”らしい。期待に添えなくて残念だけど。」

「本っ当！」

秀はごほごほと咳き込みながら、体を起こした。首筋の深い傷に手を当て、

「――つたく、ろくなことしてくれないな、お前ら吸血鬼一族はよっ！腹立たしいったら、ありやしねえ！」

地面にどかつ、と胡坐をかき、拗ねた様にそっぽを向いてみせる。昔っからそうだった。てめえが『1番』みたいな顔しやつて。

迷惑千万なあ、この事だぜ………つつ！おー、痛え………

ふうふう、と肘の傷口に息を吹きかける。

「悪いね、狼男。」

和人は悪びれた風もなく、彼に近づき、目の前で腰を降ろした。

「”躑”がなつてなくつて。」

「帝王なら、それくらい躑とけよ。」

恨めしげに、横目で睨みつける――

が、間近に見る和人の”整い過ぎた容貌”に思わず視線をそらす。

「傷は、大丈夫か？秀。」

「？・・・・・・別に――」

何処かで――聞き覚えのある、この台詞。

アレハ ドコ ダッタロウ・・・

「・・・・・・帝王、あんた何処かでこの俺と――」

「？何？」

和人は朝の日射しの中で微笑んだ。

秀の目を眩しげに細めさせたのは、明るすぎる朝日のせいか。

それとも、彼の微笑みのせいか・・・。

「・・・いや。」

否定する様に秀は頭を振った。「そんなはずない・・・」

あんたは、俺の一族を滅ぼした一族の長だもんな。」

「――」

一瞬――和人がその澄んだ瞳に翳りを宿した事に、秀は気付かない。

思い直して、秀は、

「さあ、決着をつけようじゃないの、帝王！一族の恨みを今こそはらしてやる！」

堂々と2本足で立ち上がり、秀は言った。「陽<sup>ひ</sup>の中でも平気なん  
だろ、あんた。」

「――その前に、尋ねたい事がある。」

「？何だよ、改まって。」

拍子抜けした感じで、秀が問いかける。

「先刻。」

静かに立ち上がる和人。

小首を傾げて、秀の瞳を覗き込む。

「・・・・・・・・先刻、俺の名前を呼んだのは”どっち”だ？秀

」  
「え・・・・？」

ファイティングポーズをとっていた秀の両拳が思わず下へ下がる。

「・・・・・・・・どっちって・・・・・・・・」

「『和人』って読んでくれたのは狼男<sup>きみ</sup>か・・・・それとも”秀”の方？」

「！・・・・」

甦る、あの日からの記憶・・・・

『入ってないだろ？その中には』

新宿中、追い求めた彼の名は・・・・

「和人！」

秀は叫んだ。

「・・・・・・・・」

和人はほつとした面持ちで、彼の体を片手で抱きしめ、その肩に顔を埋めた。

「・・・・・・・・心配かけやがって、こいつは・・・・もう、何処にも行くなよ。」

「ばーか・・・・」

秀も苦笑いを浮かべて、和人の頭を左手で軽く抱く。「そりゃ、俺の台詞だぜ。」

やがて・・・・

街は静かに動き始める。

『昼の住人』たちの手によって・・・・。

『WOLF MEET VAMPIRE』＜18＞（後書き）

なんかこのまんま何処かで二時小説でBLやられそうな気がする  
いねえよ！！んなやつ）。



## PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能<sup>たんのう</sup>してください。

---

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。  
<http://ncode.syosetu.com/n4085m/>

---

MOON-3 『WOLF MEET VAMPIRE』 < 1 8 >

2010年10月11日19時43分発行